

福 議 委 号
令和 7 年 2 月 1 3 日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男

所管事務調査報告書の提出について

令和 6 年 1 2 月 1 7 日福島町議会定例会 1 2 月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 1 4 8 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調 査 事 件	1 4 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況について		
調 査 期 間	令和 7 年 1 月 3 0 日		
出 席 委 員	委 員 長 佐藤 孝男 委 員 平沼 昌平 委 員 溝部 幸基	副委員長 小鹿 昭義 委 員 平野 隆雄	
委員外議員	議 員 藤山 大	議 員 熊野 茂夫	
出席説明員	町 長 鳴海 清春 産業課長 福原 貴之 指導普及係長 川合 力哉	副 町 長 小鹿 一彦 産業課長補佐 中村 伸也	
議会事務局職員	事務局長 鍋谷 浩行 主 任 角谷 里紗	係 長 山下 貴義	

[委員会意見]

調査事件 1 4 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組 状況について (令和 7 年 1 月 30 日調査)

町では、令和 5 年度に「岩部地区等活性化基本構想」と「昆布養殖作業省力化検討計画」をそれぞれ策定しており、この度、当該構想・計画の令和 6 年度の取り組み状況について資料が示されたことから、その内容を調査したので、調査結果を報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町より示された「岩部地区等活性化・昆布養殖作業省力化に向けた取組状況について」は一定の理解をしたが、以下の事項について検討されたい。

1. 岩部地区等活性化計画の推進について

岩部地区等活性化基本構想の具体的な推進計画を進めるにあたり、先日の火災により岩部地区の住人が移住を余儀なくされ、無居住となったことから、定住を想定した基本計画の見直しが必要であることを指摘する。

(1) 岩部地区の今後の対応について

この度の火災により岩部地区が無居住となり、人の目が届かず、同地区に所在する空家や交流センター等の建物、浄水場施設などの管理・監視や、熊等の野生動物や不審者の徘徊など保安上の問題が懸念されることから、岩部クルーズ体験に来訪する観光客の安全確保と併せて同地区の防犯対策について検討すべきと思慮する。

道道岩部線については、同地区が無居住となったことで生活道路維持管理の重要度が低下することが懸念され、整備等について北海道との交渉が難しくなることが想定されるので、クルーズ観光の現状・今後の整備計画を充分説明し、現状どおりの対応を強く要望、交渉することを望む。

(2) 展望台・河川の整備について

岩部展望台を新たな散策コースとすることについては賛同するが、ルートを選定・整備、地権者との交渉、北海道との協議等、課題が山積している点については、解決に向け早急に対応することを望む。

河川の整備についても、国・道との協議が必要なことから時間が掛かることが想定されるが、河川の整備の優先度を下げるのではなく、総体的な構想として基本計画に登載し、早急に国・道と協議を始める必要があると思慮するので検討されたい。

(3) 管理エリアの整備について

岩部クルーズ利用者の8割が函館に宿泊していると分析されており、クルーズ以外の滞在時間を延ばすことが今後の課題となっていることから、休憩所や売店設置など多目的施設の整備を行うとした「交流センターを含めた管理エリアの整備」の早期実現に向け、拡大エリア内の財産所有者との交渉を進めるよう望む。整備にあたっては観光客が多くなり問題となる防犯対策やトイレの整備等も必要不可欠であると思慮されるので検討されたい。

2. 昆布養殖作業省力化に向けた取り組み状況について

前回の委員会でも指摘しているが、町が取り組みを進めるにあたっては、昆布養殖漁業の現状を正確に把握することが重要であり、昆布養殖漁家の廃業、継承、新規就業者・就業希望者等の推移等について資料で示す事が重要であり、この度の資料にも詳細が記されていないことを再度指摘しておく。

(1) 共同利用施設の整備について

漁協・養殖昆布漁業者からの強い要望を受け、町では令和7年度から関係漁業者等と共同利用施設の整備に向けた協議を進めるとしているが、現在、4つの生産部会があり、特に、福島地区が販売方法等の相違から3つに分かれている点については、共同利用による作業効率化を進める上でも重要な課題と推察されるので、生産部会の統一、省力化・協業化に向けてさらに努力されることを望む。